

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702677
法人名	有限会社 福の里
事業所名	福の里 グループホーム結(1)
所在地	福岡県北九州市八幡西区楠橋上方二丁目18-37
自己評価作成日	平成25年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年6月25日	評価結果確定日	平成25年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活においては利用者様の残存能力を活かしつつ家事作業を手伝って頂いたり、季節の行事(スイカ割り、クリスマス会等)外出支援(花見、ぶどう狩り等)への参加、利用者様の誕生日には利用者様と一緒にケーキをつくらたり、また同法人内のデイサービスの利用者様と合同にて夏祭り、運動会等を行い気分転換を図っている。日中は施錠せず、日々の生活を安心安全に暮らして頂いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福の里グループホーム結には、デイサービス事業所や有料老人ホームが併設され、日常的に交流や連携を図り、サービスの向上に結び付けている。地域の寄り合いには、法人代表者や管理者、職員が参加し、地域の課題について率直な意見交換を行ったり、近隣の幼稚園との相互の交流の機会を継続する等、日常的に地域とのつながりがある。また、年2回の家族会では、重度化に向けた不安や要望、運営推進会議の目的や意義について話し合いが行われる等、様々な取り組みから、開かれた事業所としての事業運営がうかがえる。会議や研修は計画的に実施され、サービスの質の向上に向けた意識も高い。反面、日常の暮らしは、意向やニーズに応じた柔軟なサービス提供を心がけ、理念とする「自由な生活」の支援の実践に向けて取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自身で考えた事業所独自の理念を常に目の届くところに掲げその理念を踏まえながら日々の実践へとつなげている。	「自由な生活」の支援を柱とする事業所独自の介護理念のもとに、「自分(職員)が大切にしたい事」を具体的に作成している。専門職としての研鑽を重ねながら、自由な生活を支えるための健康管理や機能維持、生活リズムの確立とのバランスを検討する等、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のゴミ出しや清掃活動又、自治会に参加しながらご近所づきあいを通じ、地域交流を深めている。	地域の寄り合いには、法人代表者や管理者、職員が参加し、情報共有や意見交換を行い、地域の課題についても話し合いを行っている。また、職員が地域の清掃活動に参加する等、地域の一人として活動している。月に1、2回、近隣の幼稚園との交流の機会もあり、ホームからもバザー等に参加している。災害時の避難場所として、隣接する法人に協力をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の幼稚園の園児さんの来訪やこちらから出向いたり交流をもちながら認知症の理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し行事予定や施設の状況、消防訓練等についての報告や意見交換を行って出された意見をもとにさらなるサービス向上が図れるように努めている。	運営推進会議には、民生委員、家族、地域包括支援センター職員、系列事業所職員等の参加を得て、定期開催されている。状況報告や災害対策について意見交換を行い、サービスの向上に結び付けるべく取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、連絡をとりあいながら情報交換を行い、協力し合える関係が築ける様努めている。	グループホーム協議会の役員を担い、行政との意見交換を行う機会を持っている。また、ケースワーカーの方との連携や情報共有を図っている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修等で資料などを通じて学ぶ機会をもちどのような行為が拘束にあたるか等を常に確認し理解を深める様にしている。	法人全体の研修や、毎週実施されるグループホーム会議の中で、職員の共有認識を図っている。介護理念である「自由な生活」の支援を実践すべく、職員のポジショニングの工夫や、細やかな視点から振り返りも行われており、身体拘束を行なわないケアに取り組んでいる。日中の施錠は行なわれていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で資料などを通じ学ぶ機会をもち、職員間で情報を共有し見過ごすことのないように努めている。		

福岡県 福の里グループホーム結

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で資料などを通じ学ぶ機会をもち研修等に参加しているが今後もっと理解を深める必要がある。	権利擁護に関する制度については、法人全体研修の中に位置付け、職員の理解を深めている。現在、制度を活用している方もおり、関係機関との連携を図り、支援を行っている。今後は、家族や地域に向けた積極的な情報提供にも期待します。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章で示した上で不安や疑問点について十分な説明や話し合いを行い、理解、納得して頂ける様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望の書類を作成し職員がいつでも確認出来る様にしている。また運営推進会議や面会時にコミュニケーションを図っている。	年2回、5月と11月に家族会を実施している。年間行事の案内や状況報告による情報共有、また、食事会でコミュニケーションの充実を図り、家族との連携を深めている。その中で、重度化に向けた要望や不安を話し合ったり、運営推進会議の意義や目的について説明も行なわれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週の会議や月一回の全体研修時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。	毎週木曜日のグループホーム会議や、月例の管理者会議、全体研修を通じて、職員意見の収集や検討が行われている。職員個々の主体性の発揮を大切に、個別ケアの充実に向けた意見や、ストレッチャー対応車の導入等に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と個別に話をする時間を設けお互いの意見交換に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在10～70代の職員が在籍しており就業時間帯やその方の思いを尊重している。年齢、性別等は採用の判断基準とはしていない。	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行われていない。仕事への想いを重要視し、現在、10代から70代までの職員が勤務しており、安定している状況である。資格取得を奨励し、勤務調整等にてサポートを行っている。また、法人全体での研修体制も充実しており、個別のスキルアップにつなげている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議等を通じて話し合う機会を設けている。	法人全体の研修計画の中に位置付け、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。グループホーム協議会の研修参加を通じて、また、暮らしを支える様々な制度を理解することで、職員の意識を高めている。	

福岡県 福の里グループホーム結

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内においての勉強会や施設外での研修に参加する機会を設ける様にして取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し研修等に参加しながら同業者との交流を交え情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や困っていることに耳を傾けコミュニケーションをとりながら関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学に来られた際や面談時にご家族の不安や要望等を伺いながら信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望であってもご本人の体調や状況を考慮し、他施設利用を勧める事もある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の対話等を通じてご本人と共感しあい関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人とご家族の間に入りコミュニケーションをとりながら関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を御家族やご友人に出している。また手紙が届いた際には見て頂いている。	家族との連携も図りながら、自宅や美容院等への外出を支援している。友人や知人の来訪を歓迎し、携帯電話の使用等を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に皆さんが和室に集まる空間づくりをしている。また他ご利用者とコミュニケーションが円滑にとれるよう職員が間にあって支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方でも相談に來られ必要に応じたフォローや支援を行っている。また入院された方は見舞っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と対話をしながら気持ちや意向を聞きとり、希望に添えるように定期的なケアプランの見直しに努めている。	日常の中で、表出される言葉や表情、仕草等を大切に捉え、カンファレンス等にて、共有、検討を行い、思いや意向の把握に結び付けている。	新たな観察視点の確保も含め、本人の思いやこれまでのライフスタイル等の把握を、個別支援の充実に結び付けるべく、アセスメント様式の工夫や充実が期待されます。また、家族の協力も得ながら、各担当者の主体的な関わりにも期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との対話やレクリエーションの中で生活歴や昔の話を聞きながら把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご利用者の状態を把握しながら職員間で情報を交換し把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族や必要に応じて主治医等の意見を聞き職員間で意見を出し合い現状に即したプランの作成を行っている。	毎週の会議の中で、各担当者の意見を収集し、医療の役割りも含め、個別性ある介護計画が作成されている。また、個別処遇マニュアルを作成している。定期的にモニタリングを実施し、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や健康チェックを使用し朝礼や終礼時に情報を共有し気づいた事を確認しながら見直しに活かしている。		

福岡県 福の里グループホーム結

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状態や状況の変化に応じてデイサービスやショートステイ等の様々なサービスを提供しニーズに対応できるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加する機会を設けたり日々の暮らしの中で役割を持って頂ける様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様一人一人がかかりつけ医をもちいつでも適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、希望するかかりつけ医について確認し、家族との連携を図りながら、受診を支援している。皮膚科や歯科の訪問診療体制を整備し、透析の必要な方への支援も行われている。毎月の個別の通信の中で、受診状況を報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に適切な受診や看護を受けられるよう日々の利用者様の状態、体調変化等を伝えられる様に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医または緊急時の病院との連携を図りながら話し合いを通じ情報交換を行い関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所において出来る事、出来ない事を話し合いを重ねて明確にしご本人、ご家族の方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を基に、本人、家族等の意向や信仰に関する希望を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認や話し合いを重ね方針を共有している。昨年、ストレッチャー対応車が導入されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにのっとり会議等で手当の方法や対応の方法を定期的に訓練し実践出来る様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し定期的に訓練を行い職員各自が役割を確認している。また地域の方とも協力で関係づくりに努めている。	年2回、入居者全員が参加する、昼夜を想定した避難訓練を実施している。これまでは、地域の参加、協力を得た実績もあり、隣接する会社の敷地は避難場所として協力をお願いしている。次回の訓練は民生委員の方の協力により、地域の会報にて案内を行う予定である。グループホーム協議会主催の消防署による緊急時対応研修には、11名の職員が参加している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような場面においても常に敬意をもった声かけ、また声のトーンにも気を配りプライバシーの配慮を心掛けている。	法人として、接遇に関する教育を大切にしていることが伝わってくる。研修計画の中に位置付け、日常の中でも、尊厳や人格の尊重を重視した対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なにげない会話やご利用者同士の対話にも耳を傾けご本人様の思いや希望等を見つけ出し拾い上げ選択決定できるよう支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでのご本人様の生活リズムを知ったうえで希望や嗜好を伺いながら1日1日をその方らしく過ごして頂ける様取り組んでいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様愛用の化粧水やヘアクリームをつけて頂いたり特に外出や行事の際にはご本人希望の衣服を選んで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューを掲示しご利用者、職員同じ食事をしながら共通の話題につなげている。また下膳やテーブル拭き等出来る事はご利用者に手伝って頂いている。	厨房からは食事作りの様子が伝わり、個別の状況を把握しながら、できる限り形状を残した食事を提供できるよう、細やかな配慮が行われている。時には、敷地内でバイキング料理を楽しんだり、法人代表者自ら鮮魚を捌き、刺身が提供される等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量をチェック表に記入し個々人の1日の摂取量を把握することに努めている。また嚥下状態の変化に応じ食事形態も変更している。		

福岡県 福の里グループホーム結

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声かけしご利用者の能力に応じた介助を実践し義歯の定期的な消毒、場合によっては歯科往診を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解しプライバシーに配慮しながら定期的なトイレ誘導の声かけをし失禁を防ぎつつまた安易なオムツへの移行をしないように心掛けている。	個別の排泄パターンの把握に努め、定期及び、リズムに応じたトイレ誘導を行っている。夜間も個別の状況を検討し、必要な支援を見極めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便パターンをつかみ場合によっては服薬(下剤)をもちいるが日々の水分補給、体を動かすことによって予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースとなっているが個々の希望や体調面を考慮し職員都合にならないように支援している。	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、毎日、入浴準備を行っているため、その日の希望や体調、状況等に応じて、柔軟な対応が可能である。菖蒲湯や柚子湯等、季節感を楽しみながら、ゆっくりとした入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を踏まえ日中でも臥床の希望があれば居室にて休んで頂いたり季節合わせ寝具の交換や室温調節等を行い支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤からのお薬説明書をファイルし常に目を通しながら服薬介助を行っている。またお薬の変更後は副作用、ご利用者の変化を把握し記録するよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じ日々の生活中に家事のお手伝いをしていただいたりまたコーヒー等の嗜好品をしたり屋外でのバーベキューや外出支援等を取り入れるよう努めている。		

福岡県 福の里グループホーム結

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の体調に合わせて散歩にでたり季節の行事に参加して頂ける様に努めている。	希望や季候に応じて、外出支援を行っている。玄関先にはベンチが配置され、敷地内の外気浴が気軽に行える環境である。季節の外出行事(ぶどう狩り・みかん狩り等)を企画し、積極的な支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者は基本、金銭の所持をすることはない為、物品等必要時はご家族に依頼し対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いていただいたり電話をされる際は職員つきそいしていただいている。また毎月、担当職員が福の里便りを作成しご家族に状況等をお知らせしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のポスター作り、写真や壁飾り等をご利用者と一緒に作成し飾っている。また食事時には馴染みのある音楽を流して楽しんで頂いている。	1年365日、時間を決め、一日2回換気を行っている。天窓が各所に設けられているため、室内は明るく、各々カーテンで調光されている。畳スペースやソファの設置等、その時々に応じた寛ぎの場所が確保されている。「今月の作品」が飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、和室でレクリエーション等をしたり皆さんで過ごして頂いているが状況に応じて各自、居室で休んで頂いたりしている。また席の場所もご利用者同士の関係性に留意している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望により馴染みのものを持ちこまれ安心して頂いている。また窓には内障子がありプライバシーに配慮した居心地の良い空間を提供している。	各居室には、感染防止に効果的な空気清浄機が設置され、携帯電話の持ち込みや連絡先、家族の写真等が掲示されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし必要な所に手すりを設置し安全に生活できる室内空間を提供している。また必要な方には職員付き添い、介助を行い安心安全な生活が送れるように留意している。		